一棟司塾

令和5年3月7日

（一社）東北建設技能協会

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**宮城県**	
事業期間	令和4年6月1日～令和5年1月31日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：20名（男性18名、女性2名）**
受講者属性	種別	**大工：20名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**0名**　30歳代：**4名** 20-24歳：**4名**　40歳代：**3名** 25-29歳：**8名**　50歳代：**1名**
座学・実技研修	座学	**2回（富谷市会場：2回）**
	実技	**26回（富谷市会場：24回、石巻市会場：1回、栗原市会場1回）**
	計	**28回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

①座学
大学建築学部教授・工学博士を講師に招き、木材に関する概論から、最近の研究成果などの講義を実施。

②実技
図面の見方から墨付け、刻み、足場組み立て、基礎工事平屋の建て方実践、棟上げまで、家が一軒建つまでの一連プロセスを取得するための実技講習を実施。加えて、電動工具の扱い、建設用重機の運転操作、測量の基礎、ドローン操作など、多能工として必要な周辺知識や技能も習得する。

③見学会　（[確保]と合同で行う）
石巻市で、木材の生産加工業者の協力を得て、山林での木材伐採、運搬、燻煙方法など、天然木が建築材になるまでの工程を見学。栗駒市では、空き店舗群のリノベーションによる町おこしの実例を見学した。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

①座学：　木材に関する基礎的知識から、最新の研究成果など、新たな知見を得ることができた。
②実技：　木造住宅建築の全工程を体験し、職人としての伝統的な手作業の技能（墨付け、規矩術、継ぎ手、他）と、電動工具や重機類の操作など多能工としての技能を伸ばすことができた。　CCUS登録者が4名になった。
③見学会：　山林での伐採の様子や、リノベーションによる町おこしの様子を実地で見知ることができた。※被災地復興、建替え・リフォーム等の需要に応え、現場に貢献できる人材を育成できた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

①出席率の維持
受講生が就業者なため本業を優先し、やむなく欠席することがある。
→　受講生の就業先に、個人参加ではなく企業の研修の一環という位置付けで、参加し易くできないか働きかける。
②リスク管理
外的リスクにより開講時期や講習内容の変更を余儀なくされた。
→　コロナ対策強化、冬季の除雪用具の用意、水道管破裂防止対策を実施。より安価で安定した木材の購入先候補を選定する。

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**宮城県**	
事業期間	令和4年8月1日～令和4年11月30日（**約4ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：10名（男性10名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：0名** **その他（学生）：10名**
	年齢構成	20歳未満：**10名**
座学・実技研修	座学	**0回**
	実技	**10回（仙台市会場：3回、岩沼市会場：7回）**
	計	**10回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

建築に関する基礎知識は有るが、実際の現場経験が無い学生を対象に、即戦力となるような実技講習を実施。

①東北工業大学建築学部
の学生を対象に、リノベーションに関する基礎的かつ実践的な技能（主に、壁張り、床板張り、加工仕上）を習得する。
②東北電子専門学校建築科
の学生を対象に、大工技能検定3級の実技部分に相当する技能（桁・梁・束・棟木及び垂木・隅木の加工組立）を習得する。

③見学会　（[育成]と合同で行う）
石巻市で、木材の生産加工業者の協力を得て、山林での木材伐採、運搬、燻煙方法など、天然木が建築材になるまでの工程を見学。栗駒市では、空き店舗群のリノベーションによる町おこしの実例を見学した。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○リノベーションに関する基礎的かつ実践的な技能を習得し、効率的に作業するためのプランを考えることができるようになった。

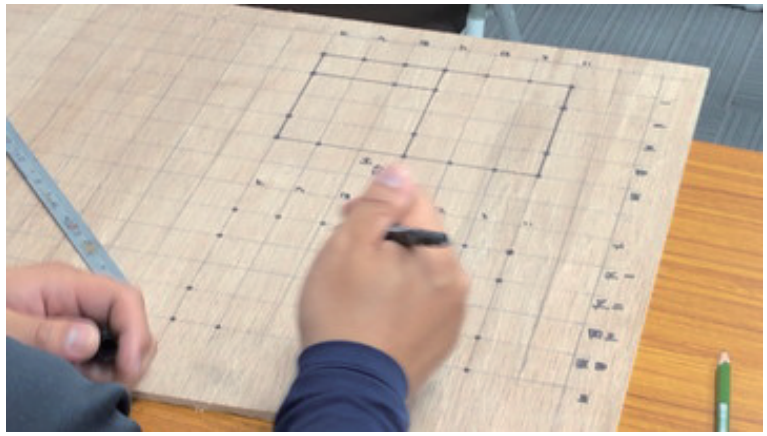
○大工技能検定3級の実技部分に相当する技能を、概ね習得し、桁・梁・束・棟木など木造家屋の構造材を加工・組み立てることが出来るようになった。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○講習内容の精選
少ない講習回数で高い学習効果を得るため、受講者の能力・適性に応じた講習内容の精選が必要
→　受講申込受付の時点でｱﾝｹｰﾄ等を実施、事前にｽｷﾙﾚﾍﾞﾙを把握し、講習内容を見直す。
○コロナ対策
前年度、受講性の大半が出席できなくなる事態があった。
→　複数人で一つの課題ではなく、個々人でも取り組める課題も用意する。

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

入塾式、安全衛生教育



図面（手板）書き

手道具による刻み作業

電動工具の取り扱い

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

建て方：土台

土台組み

足場組み

柱、桟、建て方

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

屋根掛け

上棟式

筋交い

窓取付け

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

階段設置

床材、壁材　取付け

内装・左官

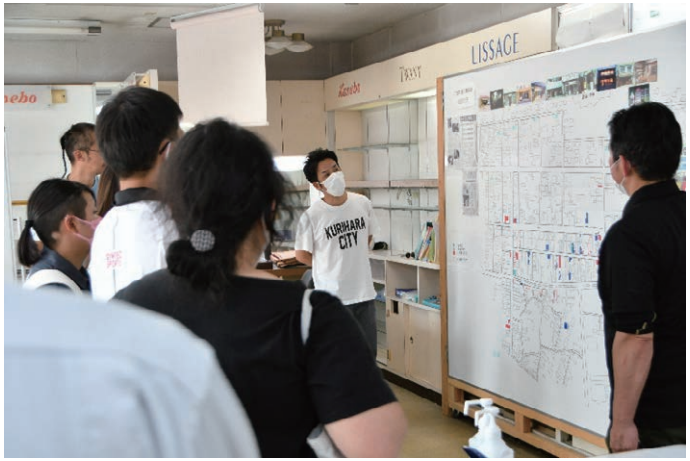
木造平屋建て　一棟全景

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

座学講習：　木材の概論、耐火性・耐久性、等

現場見学：　石巻市山林、伐採現場

現場見学：　栗原市、燻煙工場



現場見学：　リノベーションによる町おこし

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

重機講習：　バックホウの運転操作

重機講習：　小型移動式クレーン、玉掛け

測量

ドローン操縦

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【確保】

大工技能の基礎

大工技能の基礎

以　上

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域連携型による伝統的大工の担い手育成
および就労環境改善

令和5年3月7日

日本の伝統的大工塾

令和4年度　地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善（日本の伝統的大工塾）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**山形県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和6年2月6日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：5名（男性5名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：5名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**0名**　30歳代　：**1名** 20-24歳：**1名**　40歳代～：**3名** 25-29歳：**0名**
座学・実技研修	座学	**3回（鶴岡会場）**
	実技	**12回（鶴岡会場）**
	計	**15回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

大工従事者の手確保と技術向上のため、鶴岡市内に残る伝統構法を講師から学ぶ実技主体の大工塾を開催。

○実技講座

今年度は昨年度からの続きとして3×5間の平屋住宅を想定した課題の実技講座を通年通して開催。
（基本的に隔週日曜が講座開催日）

○出前講座

安藤邦廣先生を講師にして板倉構法の技法や、災害時の応急仮設住宅への板倉構法の活用事例について学ぶ出前講座を開催。午前中は大工や工務店関係者向けの技術的内容に特化し、午後は一般聴講者も参加可能な活用事例の講座として伝統構法の可能性普及に努めることができた。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○年度初めに立てた目標についてはいずれも達成できた。
■伏図・木拾いの評価：現状52%を目標65%以上
→ **実績69%**
■墨付け・刻みの評価：現状42%を目標50%以上
→ **実績61%**

○実技で「やってみた」ことが自信と本業への応用につながり、講師が当初から掲げていた**「まず経験する事」の重要性**を塾生たちが実感(体感)する1年になった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○社会経済の回復による本業の繁忙で講座開催日の確保自体が難しくなった一年だった。
（予定開催補助対象期間24回→実績15回）
特にコロナが落ちついた夏季は「講座を開催したいけれど本業が忙しくて集まれない」という日が複数回あった。
来年度以降も同じ状態が続く可能性があるため、定期の講座ではなく、フレキシブルなスケジュールでの対応とする方向で検討している。

令和4年度　地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善（日本の伝統的大工塾）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**山形県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和6年2月6日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：15名（男性12名、女性3名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：12名** **その他（設計・行政）：3名**
	年齢構成	20歳代：**0名**　50歳代：**0名** 30歳代：**2名**　60歳～：**12名** 40歳代：**1名**
座学・実技研修	座学	**2回（山形会場）**
	実技	**0回**
	計	**2回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

「若手入職者の確保と地元工務店の社会保険強化活動」の課題の一つである社会保険加入のための勉強会を開催
→給与＜週休二日制・社会保険の有無を重要視する若者の意識を理解してもらうこともサブの目的

○中小工務店向けに4時間（2日×2時間）の研修会を開催
1回目は「社会保険の基礎」として、定めている法令やその概要について知る内容
増えつつある70歳overの職人の社会保険(年金)切替などにも触れた。

2回目は「社会保険の実際」として、月収から社会保険を控除した場合、手取りがどうなるか、事業主の負担額はどのくらいかを例題としてあげ自ら計算してもらうという内容を行った。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○「理屈は分かっているものの具体的にどうなるか」という曖昧な理解と疑問を、例題を基に数字で可視化し、理解を深めてもらうという結果は目標どおり得られた。
○雇用保険の負担率がほかの業種に比べ大きいことなどから、全加入の難しさも改めて噛み締めるものになり、社会保険の重要さを理解しつつも、適切な賃金体制を確立する取り組みも並行して行う重要性を共有する機会となった。

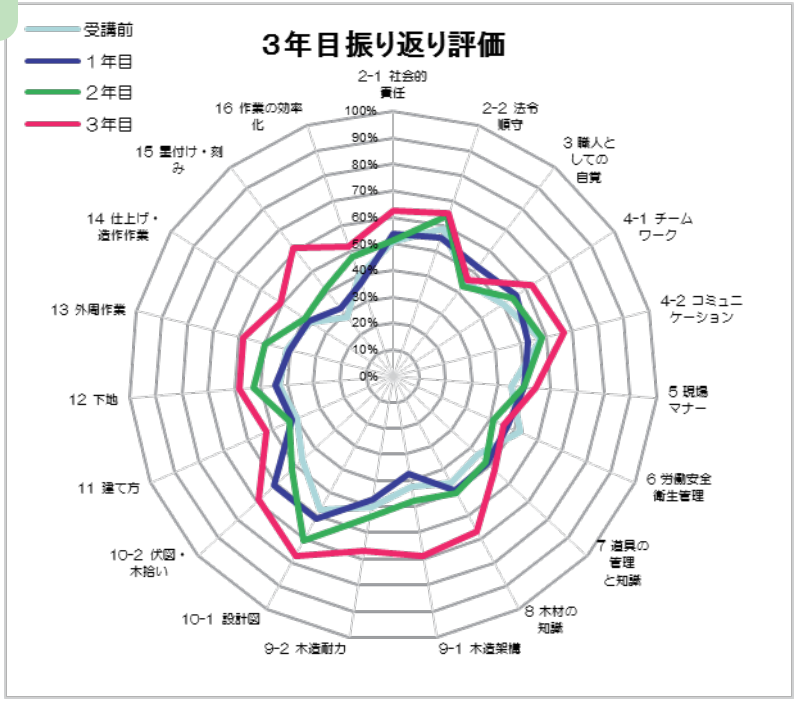
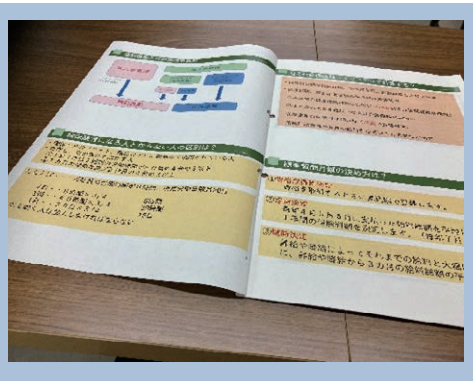
2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○建設業の週休二日制本格導入に対する不安の声が多いことから、懸案事項の洗い出しや 職人への周知理解、今までの賃金と同等の保障に対する対策などについても研修が必要と思われる。

令和4年度　地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善
（日本の伝統的大工塾）【育成・確保】

育成出前講座

育成講座



確保研修会